

松葉川奥物語



中津川
地名は山向部の
はざまの土地を流れる
川に由来するといわれる。
山をへだてて大正にも
中津川地区がある。
日本各地にも存在する
この川は、日本は
急峻な山岳地帯に
人々の暮らしが
営まれている川だ。

枝折山 820m
山頂に祠の跡があり、昔は
雨送りの神事がされたという。
大昔、このあたりが水没した際
大きな舟が、この山頂に流れのち
という伝説もある。「おあじょう」とし
東の方から見ると富士山に似ている
ことから松葉川富士とも呼ばれる。
山頂からは葉山の町がよく見える。

熊野神社
大正11年
一斗俵沈下橋
510年築橋。四ノ十川で最も古い沈下橋。
橋が揺れる前は渡し船が往来していた。
架橋は難工事。川底の岩盤が深く
割石をつめた木流床という工法で構築された。
同年、国で完成したばかりの橋が流出する被害。
橋脚の巾を長くして洪水に対応する修復された。
地元負担金の徴収や、労務費は、はるか昔に
200年、国の登録有形文化財に指定された。

米の川城
南部氏の居城(米野川城、米野城)
城址は大正末期まで残っていた。
昭和初期、米奥小学校の運動場の
造成のため堀削され消滅。
南部高忠が、この地を南北に始め
城を築き、子孫と代々統治された。
南部氏の治めた領地は「神田郷」
(米ノ川、一斗俵、中津川、作屋の4ヶ村)
502石の領主として、200年にわたる
この地で守護しつづけた。
現存は観音堂が見守っている。
このあたりがよく見える。

弥生遺跡が多く見られ弥生原
高賀茂神社には弥生時代
そのまの原形をとどめた銅矛
5本と銅刀1本が貴重な宝物とい
えられている。
この銅矛は、対岸の作屋の川で
510年に5本と3つ出土した。

北川から開闢路を越す
坂の谷間は往還道であった。
急坂で、旅人は難儀した。
延享8年、今由馬は
西地区の利便を図るため、坂
私財を投じてトンネルを掘った。
長さ90m、幅1.8m、高さ2m。
530年代、道路整備が進み
利用者が減り、道となる。
(今由馬は西地区の利便を図るため、坂
私財を投じてトンネルを掘った。)

中西中通(1908-1946)
日本洋画界の先駆者として
評価され「洋の画家」として
慕われ続けた。
毎年「中通祭」が誕生日の
10月13日に執り行なわれている。

上流にある産米地と
現地にあった切畑を
合わせて一つの井堰とし
ことから通称「三堰」。
かんがい面積100ha。
510完成。

池野神社
ある時、越前佐竹家の祖が
長池で水牛を飼っていた。一日、水牛が
入った。古い師匠にたずねると
この水牛は水連女神の神霊で
あると、この水牛を「世の権現様」と
して祭った。9月27日祭日。
戦前は出征軍人が必ず参拝し
武運長久を祈った。

この地域は室町時代以前は米奥の奥野であった。
1370年(応安三年)奥州の南部周防守高忠という人が
諸國を巡り、松葉川北部に足止めして南進を始めた。
田原を南進、穀物一斗も土佐屋司に納めたところ
「一斗俵」の地名がついたといわれる。
この南進は何代にもわたる長期事業となり、だいに
勢力を伸ばし米の川一帯を領有する豪族となる。
数々の戦いもあり、数々の伝説や物語も残る。
600年以上前に南部高忠、と源とある南部一族により
松葉川一帯の耕地が開かれた。

米奥小学校沿革
古い校庭に明るく元気な
児童が遊ぶ。遊具は
明治9年、大乗寺を教場として創設。
23年、大乗寺を改修して校舎。
昭和16年、松葉川分校が設けられた。
49年、小学校統合。
平成5年、校舎新築。
21年、明るく、はつらつと
新しいな明日をになう。

川奥の花取踊
約400年の昔、暮れ山の麓が
出でた。荒らし回りので、神占いに
すると、山の神の怒りであるとい
うこと。怒りを和らげるために
毎年、花取をやること。おわびとし
舞類が田畑を荒らすのをやめて
もらったという新しが、現代まで
伝わっている。
昭和40年、県の文化財指定。

蓮14枚と
七角形に敷いた
踊り場。
演目14種類。

今は山の神様を麓に
祭。集会所で執り行
なわれている。

かつて、奥神には
管林署の事務所が
あった。住宅跡が残る。